

R7年度 美作市民文学選奨【一般:短歌】

	賞	氏名	作品
1	最優秀賞	田村 敬子	門の辺に一つ咲きそむる露草のこのむらさきの一日のいのちはや
2	優秀賞	新田 千晶	コツコツとリズム良く鳴る靴の音に足どり軽く裡をも軽し
3	優秀賞	角 利津	仕舞ひおく夏の衣服を畳みつつ 百歳近きわが身を思ふ
4	優良賞	清水 としえ	暑き夏食後は横になりたくて一等席を夫と争う
5	優良賞	濱田 くに子	若き頃詠みたる歌集を本棚に見つけて読めば時の匂ひす
6	優良賞	松本 ヤスコ	自らの足で歩ける喜びをかみしめ日々の老老介護
7	入選	入矢 敏江	「そうかそうか」と繰り返かへし笑む百歳の母の「そうか」は相の手のやう
8	入選	豊田 絢子	近くなり遠くなり行く救急車に誰ぞと気になる過疎地に住めば
9	入選	谷口 亘	葉月去り長月くれどこの暑さ何時迄居すわる真夏日様は
10	入選	高橋 泰子	楽しみは月に二回の歌の会少女にもなり乙女にもなり
11	入選	神崎 蘭子	四歳は筍むきに必死なり「なんだかぐや姫今いないね」と
12	入選	黒石 初江	闘病の義妹に一目会ひたきに我に鞭打ち東京に行く
13	入選	日下 智加枝	そうろりと両手に掬へば手の平を撫る目高よ大きうなつて